



平成28年 5月13日

各 位

会 社 名 株式会社ピクセラ  
代表者名 代表取締役社長 藤岡 浩  
(コード：6731 東証第二部)  
問合せ先 取締役 池本 敬太  
(TEL 06-6633-3500)

## (訂正)「平成28年9月期第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

平成28年2月12日に開示いたしました「平成28年9月期第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の記載内容に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします。

なお、訂正箇所は下線にて表示しております。

記

### 1. 訂正の箇所

①. 「平成28年9月期第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」2ページ記載の1. 当四半期決算に関する定性的情報の(1)経営成績に関する説明

②. 「平成28年9月期第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」12ページ記載の(セグメント情報等)【セグメント情報】のⅡ当第1四半期連結累計期間(自平成27年10月1日 至平成27年12月31日)の1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報と、2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

### 2. 訂正の内容

①. 1. 当四半期決算に関する定性的情報の(1)経営成績に関する説明

(訂正前)

<前略>

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、当社グループの事業展開、経営資源配分の決定及び業績評価の方法を実態に即して見直したことにより報告セグメントの区分を変更しております。以下の前年同四半期比較については、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

[AV関連事業]

ワイヤレステレビチューナーは、回線事業者向け製品は堅調に推移いたしました。家電メーカー向け製品は伸び悩みました。一方、モバイルチューナーは、一部機種の販売終了があったものの、主力機種については底堅く推移いたしました。

ケーブルテレビ局向けIP-STBは、防災端末として地方自治体の採用が徐々に進んでおりますが、収益への貢献はわずかに留まっております。

パソコン向けテレビキャプチャーは2番組同時録画に対応した機種が好調であったものの、TV向けコアボードは開発の遅れと市場低迷により想定を下回りました。

また、ビデオカメラ向けの画像編集アプリケーションは、新OS対応関連の開発や保守案件の増加により堅調に推移いたしました。

これらの結果、売上高は3億65百万円（前年同期比58.2%減）、セグメント損失（営業損失）は3百万円（前年同期はセグメント利益2億33百万円）となりました。

[光触媒関連事業]

光触媒塗料関連では、前期に子会社を売却したことに伴う影響とブルネイ大学との共同研究およびインドでの省エネ実証実験の経費増加により、減収減益となりました。

この結果、売上高は66百万円（前年同期比52.5%減）、セグメント損失（営業損失）は46百万円（前年同期はセグメント損失18百万円）となりました。

(注) 各セグメントのセグメント損失（営業損失）は、「セグメント情報」に記載のとおり、各セグメントに配分していない全社費用1億円を配分する前の金額であります。

(訂正後)

<前略>

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、当社グループの事業展開、経営資源配分の決定及び業績評価の方法を実態に即して見直したことにより報告セグメントの区分を変更しております。以下の前年同四半期比較については、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

[AV関連事業]

ワイヤレステレビチューナーは、回線事業者向け製品は堅調に推移いたしましたでしたが、家電メーカー向け製品は伸び悩みました。一方、モバイルチューナーは、一部機種の販売終了があったものの、主力機種については底堅く推移いたしました。

ケーブルテレビ局向けIP-STBは、防災端末として地方自治体の採用が徐々に進んでおりますが、収益への貢献はわずかに留まっております。

パソコン向けテレビキャプチャーは2番組同時録画に対応した機種が好調であったものの、TV向けコアボードは開発の遅れと市場低迷により想定を下回りました。

また、ビデオカメラ向けの画像編集アプリケーションは、新OS対応関連の開発や保守案件の増加により堅調に推移いたしました。

これらの結果、売上高は3億65百万円（前年同期比58.2%減）、セグメント損失（営業損失）は41百万円（前年同期はセグメント利益2億33百万円）となりました。

[光触媒関連事業]

光触媒塗料関連では、前期に子会社を売却したことに伴う影響により、減収となりました。

この結果、売上高は66百万円（前年同期比52.5%減）、セグメント利益（営業利益）は1百万円（前年同期はセグメント損失18百万円）となりました。

(注) 各セグメントのセグメント利益又はセグメント損失（営業利益又は営業損失）は、「セグメント情報」に記載のとおり、各セグメントに配分していない全社費用1億10百万円を配分する前の金額であります。

②. セグメント情報

(訂正前)

【セグメント情報】

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成27年10月1日 至 平成27年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	AV 関連事業	光触媒 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	365,965	66,252	432,217	—	432,217
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	365,965	66,252	432,217	—	432,217
セグメント損失(△)	<u>△3,307</u>	<u>△46,878</u>	<u>△50,185</u>	—	<u>△50,185</u>

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

損失	金額
報告セグメント計	<u>△50,185</u>
「その他」の区分の利益	—
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	<u>△100,846</u>
棚卸資産の調整額	—
四半期連結損益計算書の営業損失	<u>△151,031</u>

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎研究費等であります。

(訂正後)

【セグメント情報】

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成27年10月1日 至 平成27年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	AV 関連事業	光触媒 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	365,965	66,252	432,217	—	432,217
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	365,965	66,252	432,217	—	432,217
セグメント利益又は損失(△)	<u>△41,105</u>	<u>1,041</u>	<u>△40,064</u>	—	<u>△40,064</u>

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

損失	金額
報告セグメント計	<u>△40,064</u>
「その他」の区分の利益	—
セグメント間取引消去	—
全社費用(注)	<u>△110,967</u>
棚卸資産の調整額	—
四半期連結損益計算書の営業損失	△151,031

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎研究費等であります。